

日蓮大聖人御書全集

しょうにんとうごへんじ

聖人等御返事

新版
1938
ゝ
1939

しようにんとうごへんじ

聖人等御返事

こうあん

ねん

弘安2年(79)

がつ

にち

10月17日

さい

58歳

にっこうとう

日興等

こんげつじゅうごにちとりのときおんふみ

おな

じゅうしちにちとりのときとうらい

かれ

今月十五日酉時御文、同じき十七日酉時到来す。「彼ら

ごかんき

こうむ

とき

なんみようほうれんげきよう

なんみようほうれんげきよう

とな

御勘気を蒙るの時、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経と唱

たてまつ

うんぬん

え奉る」云々。

ただごと

ひとえに只事にあらず。

さだ

へいのきんご

み

じゅうらせつ

定めて平金吾の身に十羅刹入り

か

ほけきよう

ぎようじや

こころ

れい

せつせん

易わって、法華経の行者を試みたもうか。例せば、雪山

どうじ

しびおうとう

あつき

み

い

もの

童子・尸毘王等のごとし。はたまた、悪鬼その身に入る者か。

しやか

たほう

じつぼう

しよぶつ

ぼんたいとう

ご

ごひやくさい

ほけきよう

釈迦・多宝・十方の諸仏・梵帝等、五の五百歳の法華経の

ぎようじや しゅべ

おんちか

だいろん い

よ

行者を守護すべきの御誓いはこれなり。大論に云わく「能

どく へん くすり

てんだい

どく へん くすり

く毒を変じて薬となす」。天台云わく「毒を変じて薬とな

うんぬん みよう じむな

さだ しゅゆ しょうばつあ

す」云々。妙の字虚しからざれば、定めて須臾に賞罰有ら

んか。

ほうきぼうとう

ふか

むね そん

もんちゆう

と

へいのきんご

伯耆房等、深くこの旨を存して問注を遂ぐべし。平金吾

もう よう

い

ぶんえい

ごかんき

とき

しょうにん

おお

に申すべき様は、「去ぬる文永の御勘気の時の聖人の仰せ、

わす たも

わざわ

お

かさ

じゅうらせつ

ばち

忘れ給うか。その殃いまだ畢わらず。重ねて十羅刹の罰

まね と

さいい

もう

つ

きようきようきんげん

を招き取るか」。最後に申し付けよ。恐々謹言。

じゅうがつじゅうしちにちいぬのとき

にちれん

かおう

十月十七日戌時

日蓮

花押

しようにんとうごへんじ

聖人等御返事

このことのぶるならばこの方にはとがなしとみな人申

かた

科

皆

ひともう

だいしんぼう

らくば

頭

ひとびと

すべし。また大進房が落馬あらわるべし。あらわれれば、人々

殊

怖

てん

おんはか

おのおの

怖

ことにおずべし。天の御計らいなり。各もおずることな

強

さだ

しさい出

来

覚

かれ。つよりもてゆかば、定めて子細いできぬとおぼうる

なり。

こんど

つか

淡

路

ぼう

今度の使いにはあわじ房をすべし。